

第1回如水作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年7月8日 18時～19時30分

開催場所: 如水コミュニティセンター 集会室

参加者

グループ	A	B	C	D
人数	4	4	4	4

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介:
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力や自身の活動について発表することとなった。
- 参加者から、自己紹介とともに自身が携わっている地域活動の詳細が共有された。
- グループワーク①
ファシリテーターの説明の後、参加者が住んでいる地域で「いいな」と思うものや場所について、「花」をモチーフにしたカードに書き出す作業を促しました。参加者は個々人で2分間思考を巡らせ、各自の思いや誇りに思う点を書き出しました。
- 参加者は個々人で書き出したカードをグループ内で共有し、模造紙に貼り付ける作業を行いました。この過程で、他者の意見を聞きながら新たな気づきを得たり、自身のカードを追加したりして、グループ全体で地域の魅力を可視化しました
- 他グループとの共有:
事務局の促しにより、各参加者は他グループが提示した意見を閲覧し、自身の考えに追加や修正を加える時間が設けられた。他の地区で行われている特色ある活動などが共有され、地域資源についての新たな気づきが促された。
- 地域行事、災害の少なさ、地域の環境などが出されました。

- グループワーク②:
住みたい地域をイメージする作業が行われ、参加者は必要な施設やサービスについて意見を出し合いました。子どもが遊べる屋内施設、多文化共生の推進、高齢者が活動しやすい環境などの意見が出されました。
- 続いて、参加者に、近隣に住む住民の構成について、高齢者、子育て世代、共働き世帯、外国人住民といった多様な属性を挙げてもらいました。
- 参加者から、住民構成として高齢者、サラリーマン、学生、外国人などが挙げられた。医療機関へのアクセスの良さや治安の維持、公園等の憩いの場を評価しつつ、引きこもり対策、イベントの開催、プレミアム商品券の拡充、高齢者の免許返納に伴う交通支援などを提案した。
- 参加者から、他グループと同様の住民層に加え、特に外国人居住者への対応を重視する視点を提示し、商店街の整備などが提案された。
- 参加者から、校区内の店舗の多さや利便性を評価し、また週末には多くの外国人が駅や交通手段を利用している現状を報告した。また、サロンを通じた交流の可能性を示唆しつつ、公園の整備不足を課題として挙げたほか、災害が少ないという地域特性をメリットとして指摘した。
- 参加者から、困った時に声をかけ合える相談窓口や、多世代が気軽に集まれる場所の重要性を強調した。特に、高齢男性などが集まれる場所の不足を指摘し、そうした交流拠点の整備が住みやすさにつながるという意見が出された。
- 事務局は、今回の作業の終了を宣言し、今後は掲示された「こんな地域にしたい」という目標を実現するために、具体的に必要な取り組みや行動について議論していく方針を示した。